


読書推進運動


 公益社団法人
 読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 小塚 昌弘
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.640

- ★「こどもの読書週間」開催にあたり(2・3頁)
- ★〈大震災〉出版対策本部 解散にあたって(6頁)



写真提供=新潮社

足元の矛盾を乗りこなす

ライター
ブレイデイみかこ

「こどもの読書週間」によせて

私は自他ともに認める売れない書き手なのだ。『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』という本は例外的に多くの読者に恵まれた。その理由について、ある旧友がこう言った。

「日本の人々は『多様性』ということばが、足元でどんな切実なものになっていくことを知っている。だが、たいへんそうなのでそれを認めたくはない。その一方でどうしたらいいのだろうという不安はある。そんなときに、リアル過ぎる日本の話ではなく、遠い国の話として書かれているこの本は、心地よい距離感で読むことができたのではないか」

でも多様性はいつだっていたる所にある。私たち一人ひとりの心の中だつて、違う考えや

矛盾がつねに渦巻き、多様性のあるつぼだ。なのに、「多様性」ということばはなぜか特別な輸入品のように捉えられる。だからこそリアルな日本の話を書いた本こそが本当は読まなければならないのだ。

『ぼくはイエローで……』の日本版だ、と思つたのは『ふるさとつて呼んでもいいですか』6歳で「移民」になつた私の物語(大月書店)だつた。「30年間、この本の登場を待っていました!」という星野智幸さんの帯文に思わずうなづかずにはいられない。

この本の著者は6歳で「移民」としてイランから日本に来たナデイさんだ。空港に着いた時点から「どうせ働かなくて来たんだらう? わかつているんだぞ。日本には入れ

ない。国に帰りなさい」と入管職員からお父さんが言われるのを聞いたナデイさん。強制送還されそうになつたり、税関で荷物を開けられたり、のつけからトラブル続きだ。でも、ナデイさんは空港の外でバス停でバス会社の職員がりんごジュースを買つてくれたことも忘れない。

お父さんがイスラム教の祈祷の集まりに行つただけで警察に捕まつたこともあつた。ナデイさんは家に来た警察官に小学校の通知表やランドセルを見せ、必死で日本の教育を受けていることを話し、「ほんとうに勉強してるんです。捕まえないでください!」と頼む。これでお父さんは警察に放してもらえたのだ。

ナデイさんはイスラム教と

日本の教育の狭間でも悩む。お母さんには体育のブルマーが下着にしか見えないし、ナデイさんも、自分はイスラム教徒なのになぜ肌を露出せねばならないのかと疑問を抱くようになる。そこで彼女は勇気を出して先生に相談した。ブルマーではなくジャージを着ていいですかと。先生は驚くほどあっさり「いいですよ」と答え、周囲の子どもたちも、「ジャージじゃん! カッコイ!」と言つた。仲間外れにされるのではというナデイさんの心配は杞憂だつたのだ。

違いがあるところには分断はある。分断は乗り越えるものではなく、乗り越えざるもの。ナデイさんのように地べたでたくましく乗りこなしてきた人が書いた本が英国にはたくさんある。日本にもいよいよ出てきたかと頼もしくなつた。こういう人のことばがもつと読まれるようになれば、「多様性」に対するぼんやりした憧れも、その反動とも言える過剰なアレルギーも、ともになくなつていくだろう。



もうすぐ 2021・第63回 こどもの読書週間 4/23 ~ 5/12

みんなをつなげる読書の輪！

公益社団法人 読書推進運動協議会は3月中旬、「2021・第63回 こどもの読書週間」を開催するにあたっての協力をお願いを、全国の読書推進運動協議会、公共図書館、報道機関、関係者などのみなさんにお送りいたします。

当協議会のホームページでは、ポスターとマーク、標語をあしらったロゴ(タイトル)のJPEGデータを掲載しております。マークはイラストレーターファイナルダウンロード可能です。今回は、ポップ、しおり、ブックカバーのPDFデータも2月中順より掲載しています。告知や飾りつけなど、幅広くご利用ください。今回の標語は1210点の応募作から選ばれた「いっしょによもう、いっばいよもう」。作者の和田真実さんは、「娘が本を読んでいるときの、キラキラした目とぶくぶくの頬が好きです。読み終わったあとの、満足そうな顔を毎日見たいです。ワクワクする本はまだまだあるよ、いっしょに読もう、たくさん出会う、そんな思

いを込めました」と、親子で過ごすステキな「おうち時間」の様子とともに、標語への思いを語ってくれました。

今年もポスターは荒井良二さんの絵で制作。絵は絵本『そのつもり』(講談社)から選んで、杉浦康平事務所がデザインしました。

ポスターは、3月中旬以降順次、公共図書館(都道府県立図書館へ送付)、学校図書館(全国学校図書館協議会を通じて送付)、書店(日本出版取次協会を通じて送付)読書推進運動協議会会員、後援団体、関係団体などへお送りします。残部もごらみますので、希望者は事務局までお申しつけください。

現在、図書館の休館、学校の休校はほとんどなく、『読書推進運動』4月発行号別冊の「2020年 読書週間 行事報告一覧」も例年の8割ほどのページ数になる見込みと、昨年の「こどもの読書週間」開催時と比べて状況はかなり好転したように思われます。しかし、昨年末の感染拡大などもあり、

まだまだ予断が許されない日々です。また、ソーシャルディスタンスの確保、手指消毒の徹底など、現場の方々のご苦労と工夫には、あらためて頭が下がります。どんな状況でも子どもたちと一緒に本を読むひとときを大切にしたいと思えます。

【読書推進運動協議会 事務局】
TEL 03-52244-5270
FAX 03-52244-5271
e-mail info@dokusyo.or.jp
(ドメインは「dokusho」ではなく「dokusyo」です。ご注意ください)
ホームページ
<http://www.dokusyo.or.jp>



コロナ禍でも本で世界旅行はできます！
(2020年 愛媛県松山市)

2021・第63回「子どもの読書週間」開催についてのお願い

公益社団法人 読書推進運動協
議会は、恒例の春の行事「子どもの
読書週間」を本年も主催いたしま
す。

昨年の「子どもの読書週間」は
新型コロナウイルス感染症拡大に
よる緊急事態宣言のもと、予定さ
れていた行事・イベントの中止・
縮小が余儀なくされた一方、オン
ラインでの配信、図書宅配サー
ビス、「密」を避けてのおはなし
会、ブックリストの作成など、不
安を抱える子どもたちへ読書の楽
しみを届けるための工夫に満ちた
取り組みが全国各地で行われまし
た。不透明な状況が続いておりま
すが、子どもたちと本の力を信じ、
本年も地域、現場の許す範囲での
ご協力をお願い申し上げます。

今年の標語は「いっしょによ
もう、いっぱいよもう」です。
期間中関係各位によって全国的に
実施される行事は、この標語を中
心に展開されることとなります。
幼少のときから書物に親しみ、
読書の喜びや楽しみを知り、もの
ごとを正しく判断する力をつけて

おくことが、次の世代を担う子ど
もたちにとつて、どんなに大切で
あるかはいまさら申しあげざる
もありません。本を読み、読んで
考え、考えて行動する子どもたち
が育つならば、青少年に関する多
くの問題点も解決されるのではな
いでしょうか。

「子どもの読書週間」は子どもた
ちに、よい本やよい雑誌に親しむ
ことをすすめ、読書の楽しみや喜
びを知らせ、正しい読書の習慣を
身につけてもらおう好機です。そし
て同時に大人にとつては、子ども
の読書がいかに大切なことか、よ
い本や雑誌を手渡すためにはどう
いう努力をしたらよいか、という
ことについて考える機会でもある
といえましょう。

公益社団法人 読書推進運動協
議会では「子どもの読書週間」の
テーマとして『家庭・地域読書の
すすめ』をとりあげ、「家庭・地
域に子ども文庫をつくらう」「親
子読書を育てよう」など、家庭・
地域における、子どもの読書推進
に力をそそいできました。

家庭における読書環境の整備は、
以下の3点がたいへん重要です。

(1) 幼児には父母が本を読んで聞か
せてあげる。

(2) 子どもたちの身近にいつも本を
置くことを考え、毎日たとえ
短い時間でも本を読むことを
すすめ、本を読むのを聞いて
あげる。

(3) そして大切なことは、父母みず
からが読書する姿を、子ども
たちの眼にふれさせる。

やがて、そこに本を中心とした
話題が生まれ、親子の対話に発展
することは明らかです。

地域の公共図書館、公民館、P
TA、学校図書館、子ども文庫・
地域文庫のボランティアなどによ
る、子どもたちへの読書指導、読
書普及活動、これらががっちり手
を組んでいくならば、正しい判断
力のもとに行動できる青少年の育
成に、貢献できることを確信して
います。
なお、2001年12月12日に

公布されました「子どもの読書活
動推進法」により、「子どもの読
書週間」の始まりの日である4
月23日が、「子ども読書の日」と
制定されております。「子どもの
読書週間」とともに、「子ども読
書の日」もおおいに広めていた
きたいと思えます。

記
名称 2021・第63回
子どもの読書週間
主催 公益社団法人
読書推進運動協議会

(主要構成団体) 日本書籍出
版協会、日本雑誌協会、教
科書協会、日本出版取次協
会、日本図書館協会、全国
学校図書館協議会、日本書
店商業組合連合会)

後援 文部科学省、日本新聞協会、
NHK、日本民間放送連盟、
日本PTA全国協議会、
全国市町村教育委員会連合
会
期間 4月23日から5月12日
まで

標語 一いっしょによもう、
いっぱいよもう

《行事内容》

●ポスターおよび広報文書配布
(公共図書館、全国小・中・高等
学校図書館、有力書店、関係出版
社、報道機関など)

●その他、都道府県の読書推進運
動協議会、関係各団体の協力を得
て、各種行事実施の推進

《各種機関へお願いの行事内容》
*各地の状況が許す範囲で
「協力ください」

●公共図書館、公民館、小・中・
高等学校の学校図書館などにおい
て「子どもの読書研究会」「子ど
も読書のつどい」「親と子の読書
会」「大人による子ども本研究
会」「子どもの読書相談」「児童図
書展示会」「児童文学作家による
講演会」「児童図書出版社との懇
談会」などの開催。「読書感想文・
感想画コンクール」の実施

●都道府県の読書推進運動協議会
による都・道・府・県単位の「子
ども読書大会」などの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団
体などによる、被災地域、児童
養護施設、矯正施設などへ向けた
「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

「子どもの読書推進会議」総会

はじめてのビデオ会議化
コロナ下でも可能な読書推進を

2月2日(火)、子どもの読書推進会議「2020年度 第2回 総会」が開催された(新型コロナウイルス感染症流行によりビデオ会議)。「2020年度 上半期収支計算書」の説明と承認に続き、主要事業である「絵本ワールド」の「2020年度事業報告」「2021年度事業計画」と「上野の森親子ブックフェスタ」の「2020事業報告」「2021事業計画」が

説明され、検討のうえ承認された。2020年度の「絵本ワールド」は8か所で開催予定だったが、コロナ禍で7か所が中止。2021年度も現在1か所の開催予定にとどまっている。主催団体のひとつである「上野の森親子ブックフェスタ」については、中止となった2020年の収支決算書が承認された。さらに2021年現在コロナ禍によ

「青少年読書感想文全国コンクール」

コロナにも負けず、全国より
207万超の作品が集まる

1月9日(土)、「第66回 青少年読書感想文全国コンクール(主催)公益社団法人 全国学校図書館協議会/毎日新聞社」の中央(最終)審査会が開催され、各都道府県の審査を経た代表作品496編より、最優秀作品5編ほか11編の入賞作品が決まった。

今年度は、全国の小学校・中学校・高等学校2万2208校より207万2885編の応募があった。

中央審査会では、「コロナ禍という通常とは違う日常生活であるからこそ、本と向きあい自ら」を深く見つめる作品が多かったようにも思う。「非日常のなかでの日常のよさへの気づきが生まれた作品が多く見られた」などの声があった。一方、休校の影響で学校での指導時間が充分とれなかったためか、誤字・脱字や句読点の使い方などの間違いや、話し言葉

り、5月3日(祝)5日(祝)開催予定だった実イベントを中止し、代替としてオンラインイベントを開催することが報告され、承認された。

その他、欠員となっていた副代表1名に幹事会より野上暁・日本国際児童図書評議会副会長が推薦され、満場一致で選任された。また事務局から「絵本ワールド」の助成方法を変更し、初回開催協力を廃止するかわり、書棚運搬費以外でも毎回上限50万円まで助成すると報告がありました。

参加団体から2020年度上半期の活動報告のあと、野間代表による挨拶で閉会となった。と書きことばの区別がついていない作品が例年より多く見受けられたとの意見もあった。

中学校の部で内閣総理大臣賞を受賞した、高橋英佑さん(秋田県横手市立十文字中学校2年)は、昨年

年に続いての同賞受賞となった。本年の表彰式は、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止、賞状・副賞などは受賞校に送付される。入賞者氏名・在籍校は、全国学校図書館協議会ホームページに掲載されている。

●全国学校図書館協議会

ホームページ

<https://www.jsla.or.jp/>

「子ども読書の日」啓発ポスター

推進法施行より20年、
子どもの読書をもっと広げよう！

文部科学省は、4月23日「子ども読書の日」啓発ポスターを制作、2月上旬に全国の公共図書館、小中高등학교、幼稚園などに配布しました。4月初旬には日本出版取次協会の協力で、読書推進運動協議会の「子どもの読書週間」ポスターとあわせ、書店へも配布される予定です。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」施行20周年にあたる今年、B全版も作成し、東京メトロ各駅に掲出されています。今年の掲出期間は4月19日(月)～25日(日)の予定です。期間中に東京メトロをご利用の際は、構内を探してみてください。



今年の「子ども読書の日」ポスター

■伊藤忠記念財団・2021年度

子ども文庫助成事業

贈呈先候補募集について

公益社団法人 読書推進運動協議会は、1975年以来、公益財団法人 伊藤忠記念財団(理事長・小林栄三) 主宰の「子ども文庫助成事業」に賛同し、毎年、助成贈呈先の案件募集の告知と事前調査を行っています。各道府県の読書推進運動協議会、全国の公共図書館をはじめ、ご協力をお願いする機関のみならずには、文庫や実演活動をされている個人・団体へご喧伝のほどをお願いいたします。

○実施要領(抄)

1、助成の対象

子どもたちに本を届けることを目的に読書啓発活動を行っている民間のグループまたは個人、および非営利団体。

(I)子どもの本購入費助成(購入費助成) Ⅱ子ども文庫、読み聞かせ団体、子ども文庫連絡会、子ども食堂(文庫併設)、ボランティア学習支援、外国にルーツのある子どもを対象とした活動など。
(II)病院・施設子ども読書活動費助成(病院・施設活動費助成) Ⅱ小児病棟、障がい児施設、養護施設などの子どもたちに対し、読書活動を行っているボランティア団体、公立をふくむ施設、および非営利団体など。

(III)子どもの本100冊助成(100冊助成) Ⅱ購入費助成、病院・施設活動費助成の対象者と共通。

2、助成の概要

(I)購入費助成 Ⅱ一律30万円を助成。(A)②のプログラムよりひとつ選択。(A)児童書・絵本などの書籍

紙芝居、人形劇、パネルシアターなどの購入に15万円以上使用すること。その他の費用(講習会の開催費・参加費、書架・ブックコー

トフィルムなどの購入費、紙芝居・パネルシアターの舞台など備品購入費)は15万円まで。(B)伊藤忠記念財団が指定する「指定研修会」の参加費、または交通費・宿泊代、出張講師派遣の講師謝礼・講師交

通費・会場費などに全額を充当。「指定研修会」は応募要項を参照。

(II)病院・施設活動費助成(Ⅰ(A)に

加え、障がいがある子どもたちに対する読書支援機器などの購入、および図書作成のための費用として一律30万円を助成。

(III)100冊助成 Ⅱ伊藤忠記念財団が選書した小学校低学年向けセット」「小学校中学年向けセット」「小学校高学年向けセット」「乳幼児セット(新設)」(各セット100冊、約15万円相当)のうち、希望する1セットを贈呈。助成を希望するセットのうち最大40冊までを、ほかの学年向け図書セットと、2000年以降に出版された図書を中心とする150冊の図書リストから選んだ本と入れ替えることが可能。

3、応募選択 Ⅱ助成のなかのいずれかひとつを選択。

4、応募資格 (I)購入費助成(II)病院・施設活動費助成 Ⅱ3年以上の活動実績があり、今後も継続した活動が期待できること。

(III)100冊助成 Ⅱすでに読書啓発活動を行っていること。ただし、活動の長さは不問。

※(I)(II)ともに、以前に子ども文庫助成を受けている場合は、2018年度以前の受領団体・者が再応募可能。

※収益事業を本業とする法人、公共機関は応募不可。ただし、本年

より(II)は一部公共機関も応募可。

5、助成先決定までの流れ (1)公益社団法人 読書推進運動協議会ほかによる事前調査。

(2)公益財団法人 伊藤忠記念財団職員による現地訪問(購入費助成、病院・施設活動費助成の国内応募者を予定)。

(3)選考委員会で助成先候補者を選考。

(4)伊藤忠記念財団理事会において助成先対象者を決定(12月中旬)。

6、決定の通知 Ⅱすべての応募者に、結果を書面にて通知します。

●応募要項は左記のサイトよりダウンロード可能
伊藤忠記念財団
<https://www.iti-zaidan.or.jp/>
読書推進運動協議会
<http://www.dokusho.or.jp>
(3月下旬掲載予定)

子ども文庫功労賞 公益財団法人 伊藤忠記念財団では、「子ども文庫助成事業」の一環として、「子ども文庫功労賞」を設けて、子ども文庫の普及に貢献されてきた方を顕彰している。

2021年6月20日(消印有効)
書類の提出(送付)先
〒107-0061 東京都港区北青山2-1-1
公益財団法人 伊藤忠記念財団
助成事業部
TEL 03-3497-2651

○実施要領(抄)
1、授賞の対象者 Ⅱ読書啓発活動

に長年(20年以上)関わられてきた個人で、子どもの読書活動に貢献されてきた方。推薦は他薦にかぎる。

2、賞の内容 Ⅱ賞状、副賞(30万円および記念品)

3、推薦方法 Ⅱ候補者推薦書と候補者の活動の様子がわかる資料(機関誌、会報、新聞記事など)を送ること。

4、選考方法 Ⅱ(1)選考委員会で候補者を選考。(2)伊藤忠記念財団理事会において受賞者を決定(12月中旬)。

5、決定の通知 Ⅱすべての推薦者および受賞者に、結果を書面にて通知。

本年より、子ども文庫助成応募書類の提出先も伊藤忠記念財団となります。

●子ども文庫助成応募・功労賞推薦書類の提出締切日

2021年6月20日(消印有効)
書類の提出(送付)先
〒107-0061 東京都港区北青山2-1-1
公益財団法人 伊藤忠記念財団
助成事業部
TEL 03-3497-2651

○実施要領(抄)
1、授賞の対象者 Ⅱ読書啓発活動

に長年(20年以上)関わられてきた個人で、子どもの読書活動に貢献されてきた方。推薦は他薦にかぎる。

■〈大震災〉出版対策本部 解散にあたり

活動はひと区切り、でも「寄りそう気持ち」は変わらずに

〈大震災〉出版対策本部 運営委員長 株式会社 小学館 原本 茂

〈大震災〉出版対策本部は出版社と業界関係団体数社から10年間にわたり、のべ人数30数名が参加し活動に携わってきました。そして丸10年にあたる本年3月をひとつの区切りとして解散することになりました。

作家 伊集院静さんはこんなことをおっしゃっています。「人は、人の生き方そのものを変えることは出来なくても、悲しみを抱えた人のそばに寄り添うことが出来る」と。私たち対策本部のメンバーはそんな「本の力」を信じ、支援活



人気キャラクターのイラストと名場面をラッピングされたコミックトレイン

動を続けてきたようにも思います。解散にあたり多くの方々のご理解、ご協力で感謝し、私たちがこれまで実施してきた支援活動を総括しておきたいと思えます。紙幅の関係で詳細な報告はできませんがご了承いただきたく存じます。

差し当たって主だった活動だけを簡潔書きます(順不同)。
○図書寄贈プロジェクトの立ちあげ
○〈大震災〉出版復興基金の設立
○東京国際ブックフェアでのシンポジウム・セミナーなどの開催
○被災3県の小学生全員に夏休み図書カードプレゼント(3年間)
○「本の力」展 震災関連の書籍・ムックを集めて全国展示巡回
○「メッセージカード」コンテスト(3年間)
○東北バス・スタディツアーの実施(通算8回)
○「マンガでつなぐGO東北」コミックトレインの運行
○震災遺児へのクリスマス図書カードプレゼント(10年間)

このなかから3点だけ、もう少し詳しく説明したいと思います。まず、2016年の夏に実施した「マンガでつなぐGO東北」コミックトレインの運行です。これはJR東日本仙台支社・盛岡支社との共同事業でした。講談社集英社・小学館のキャラクターをラッピング(3社が費用を負担)した3両編成の列車を東北3県で走らせました。同時に「コミック出版社の会」の協力により発着駅付近で複製原画展も開催し、イベントを盛りあげました。真つ青な空の下、列車に乗った子どもたちの笑顔が

いまでもまぶたに浮かびます。つぎに、10年間継続できた震災遺児へのクリスマス図書カードです。この活動は県によって管轄している部署が違い、窓口の担当者的人事異動に伴うトラブルもあり、さらに県ごとに送付方法が異なることなど、骨が折れる作業で

した。それでも毎年、子どもたちから心こもったお礼状が届くことで苦労が報われました。最後に日本出版クラブが中心になり、通算8回実施したバス・スタディツアーです。「忘れない」訪ねることが支援になる」をキーワードに被災地を訪ねました。毎回40名前後の参加がありました。被災各地の書店、図書館、学校をはじめ福島第一原発、第二原発、日本製紙石巻工場、ベップキッズこおりやまなど訪問しました。

気仙沼では市街地に流された第18共徳丸を見て「こんな海から離れた場所に、こんな大きな船が」と呆然とし、宮古市では田老地区の10mもあつた防波堤も津波の猛威の前になす術がなかった話を聞き、いまさらながら津波の脅威に唳驚し、復興途上の陸前高田市では長大なベルトコンベアが土を運んでいく町の風景にことばもありませんでした。毎回ツアーに参加するたびに考えさせられるものがあり複雑な気持ちを抱え込みました、それでも訪問する先々で「訪ねて来てくれてありがとう!」と逆に声をかけていただいたことが印象的でした。

本当に多くの方のご支援、ご理解のおかげで活動を継続することができました。募金箱を設置してご協力いただきました書店、出版社、販売会社、業界関連団体のみならず、一般個人の方々からも多くの寄附をいただきました。あらためて心からお礼申しあげます。

なお、大震災出版復興基金はこれまで読書推進運動協議会がその管理をしてきましたが、震災本部の解散に伴い、3月末をもって閉鎖いたします。基金の残金ならばに未使用の図書カードは全国学校図書協議会に寄附し、今後とも被災地の読書推進に役立ててもらう予定です。

冒頭に述べましたように〈大震災〉出版対策本部は解散いたします。しかしメンバー一同の被災地に寄りそう気持ちはこれからもずっと続きます。



津波のすさまじさを実感した第18共徳丸(現在は解体されています)

優良読書グループの歩み (3)

2020年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

古典読書会

代表者 大里 弘子

秋田県鹿角市

〈推薦〉

秋田県読書推進運動協議会

当会は、古典に関心のある人たちが集い、1983年からはじまりました。

これまでに『樋口一葉』『古事記』『平家物語』『徒然草』『蜻蛉日記』などを40年近くにわたり読み解いてきました。7年前からは、新たに『源氏物語』を題材にし、講師の小田島哲夫先生のもと、現在まで54帖をていねいにひも解き、時代背景を理解しながら、語句や和歌の研究に取り組み、読み進めています。

講座活動は、4月〜11月まで毎月1回のペースで図書館講座室にて開催され、冬期間は休講しています。不定期ながら他団体と合流して文化施設などをめぐる野外学

習を実施しています。そのほか、作品のなかに出てくる場所を訪ねる旅行も魅力のひとつです。

図書館とはがいに多くの関係資料の活用をうながしあい、ともに地域の古典に親しむ素養が高められているところです。

古典の世界は奥深くつきることなく、読書会としての継続につながっています。

当会のスタートは「婦人読書講座」だったためか女性が多く、現



「源氏物語」読了を目指し学びと交流を楽しむ

在の会員は最高年齢85歳をはじめ16名で、講師の小田島先生を除くとすべて女性会員です。高齢化が進み会員数が減少するなかでも、学びとそこから生まれる交流の輪は会員の励みにもなっています。

古典というとい見聞が深い講座に聞こえますが、休憩時間には和気あいあいと手持ちのお菓子やお茶でおしゃべりをするのも有意義な時間となっています。

今後の抱負としては、『源氏物語』を最終帖まで読み、古典文学をより深く掘り下げ、楽しんでいきたいと思っています。

長岡京おはなしの会 ささぶえ

代表者 田中 久代

京都府長岡京市

京都府読書推進運動協議会

〈推薦〉

私たちの会は1984年、文庫のお母さん3名で、ストーリーテリングを学ぼうと「乙訓おはなしの会」として発足しました。徐々に会員は増えていったものの、せっかくな練習したおはなしを子どもたちに届ける場はなかなかありませんでした。しかしその後、長岡京市立図書館で「小学生のため

「おとなのためのおはなし会」まで活動が広がりました



のおはなし会」として活動の場をいただき、最初は年に数回でしたが1998年には月1回土曜日の午後には、おはなしとブックトークができるようになりました。

1995年には会の名称を「長岡京おはなしの会ささぶえ」とあらため、そのころから小学校の授業時間をいただき、低学年から高学年までおはなしと絵本を届けられるようになりました。おはなしに聴き入る子どもたち、目を輝かせて絵本を見つめるその姿に、私たちも大きな喜びを得ることができ、昔話を覚え、絵本を選ぶことにいつそう力が入ります。

会員は、図書館主催の「読書ボランティア養成講座」の受講者な

どがつつづつと入会し、現在25名ほどで活動しています。月に2回の例会では、覚えたおはなしを語り、みんなが批評しあい、絵本の選書、ブックトークの勉強会なども熱心に行っています。

また、1年に一度は「おとなのためのおはなし会」と称して、近隣のお客さまを迎え発表会を催します。発表するおはなし、ブックトークは何度も何度も練習し、練りあげていきます。

東京子ども図書館名誉理事長である松岡享子さんの手引書には「何百年もの間語り継がれてきた昔話は、読むよりも語られるときもつとも生きる。聞く子どもたちは主人公に同化しておはなしの世界を心の中で体験します」とあります。この体験が子どもたちの成長過程で心のどこかに残り、困難なときの解決の道を教えてくれるかもしれません。

現在コロナ禍のなかで、図書館や学校へのおはなし配達はなくなくなってしまいましたが、この機を力と蓄えるときと考え、練習に励んでいます。おはなしや本を通して子どもたちが心豊かに育ち、生きる力を身につけてくれることを願い、会員一同楽しみながら歩んでいきたいと思っています。

「教科書の日」ポスター

「教科書川柳コンテスト」も開催!

一般社団法人教科書協会は、4月10日の「教科書の日」にあわせて、教科書の普及・啓発のためのポスターを作成、学校や図書館に配布しました。

（教科書協会より）

『教科書の日』制定から10年が経過したことを記念して、『教科書川柳コンテスト』を企画し、あらためて、身近な教科書というものの存在に、多くの方に気づいていただけることを目指しました。



教科書協会ホームページより、ふりつて応募ください（応募期間5月15日まで）

「教科書協会」では、これからの教科書についての広報活動を積極的に展開してまいります

ポスターの送付希望「教科書の日」「川柳コンテスト」についての詳細は、教科書協会まで。

教科書協会ホームページ

http://www.textbook.or.jp/

【上】今年の「教科書の日」ポスター
【下】教科書協会ホームページ二次元コード



埼玉県高校図書館司書「イチオシ本」、日本YA作家クラブ

YA世代へ！
高校司書、作家がアプローチ

埼玉県高校図書館フェスティバル実行委員会は、2月12日(金)、公式YouTubeチャンネルの生配信で「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2020」を発表、県内12人の司書の投票でベスト10に選ばれた図書を、推薦コメントとともに紹介した(発表の様子は今後もYouTubeで視聴可能。今回の1位は、伊吹有喜さんの

『雲を紡ぐ』(文藝春秋)。文藝春秋の会議室での伊吹さんと担当編集者のインタビュでは、創作の裏話なども披露された。

配信翌日より、埼玉県内の書店・図書館にて、「イチオシ本フェア」が開催中。図書館・書店でオールカラーのパネルレットが3月末まで配布される。

また、YA作品の作家と翻訳家の有志からなる、日本YA作家ク

ラブは、ニューズレター第5号を1月に発行した。今回は、石川宏千花さんと鹿田昌美さんが、「お気に入り」を紹介。YA作家クラブホームページより紙版・PDF版の申し込みができる。

YA作家クラブでは2月26日(金)に、世話人の金原瑞人さん・梨屋アリエさんがニューズレター読者とのオンラインミーティングを実施し、情報交換を行った。

埼玉県高校図書館フェスティバル実行委員会ホームページ

https://shell2011.net/

日本YA作家クラブホームページ

http://ya.inaanev

事務局報告(2月)

編集部と事務局の
ひとこと

- ・2日「子ども読書推進協議会」2020年度第2回総会開催(2020年度上半期収支計算書「絵本ワールド」上野の森親子ブックフェスタ2020年度事業報告、2021年度事業計画承認、副代表に野上暁・JBBY副会長を、代表に野上暁・助成方法の変更を了承(ビデオ会議)
- ・5日「機関紙「読書推進運動」639号入稿
- ・9日「機関紙「読書推進運動」639号責了
- ・9日「子ども読書の日」ポスターについて「よたかすけ」と打ちあわせ
- ・10日「国立国会図書館国際子ども図書館「子ども本と読書」に関する懇談会」に出席(ビデオ会議)
- ・10日「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会に出席(ビデオ会議)
- ・12日「子どもの読書週間」ポスター初校出校、読進協事務局にて凸版印刷と打ちあわせ
- ・15日「機関紙「読書推進運動」639号出来
- ・15日「子どもの読書週間」趣旨書入稿
- ・16日「2020年度第2回理事會開催」2021年度事業計画案と収支予算案について、事前の書面決議による承認を確認(ビデオ会議)
- ・17日「伊藤忠記念財団と次年度子ども文庫助成事業について打ちあわせ
- ・19日「子どもの読書週間」ポスター再校出校、読進協事務局にて凸版印刷と打ちあわせ、荒井良二さん確認のうえ、責了
- ・22日「上野の森親子ブックフェスタ2021」実行イベント中止およびオンラインイベント開催のお知らせを各関係先に通知
- ・24日「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会に出席(ビデオ会議)
- ・24日「子ども読書の日」ポスターについて「よたかすけ」と打ちあわせ
- ・25日「2021年度事業計画書」2021年度「収支予算書」を内閣府に提出

●心に残るエピソードとフレーズに満ちた「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」のなかでも「友だちだから。君は僕の友だちだからだよ」のことは心にふるえた方も多いのではないでしょうか。プレイダイムかこさんの息子さんが発したこのことばは、おそらく、自分の行動について、相手に対してのようことばをかければいいか、悩みの悩んで選んだものです(未読の方のために、詳細は書きません)。

●このエピソード以外でも、息子さんの行動、言動の根っこには、「友だちだから」という思いがうかがえます。自分とは相容れない意見を持つ相手でも、「友だちだから」切り捨てないし、支えようとする(ただし、自分の意見ははっきり伝える)。そして、プレイダイムさんが本紙巻頭で紹介された「ふるさと」って呼んでもいいですか)でも、ナディさんの友だちはみな、生まれた国や文化的な背景の違いなど関係なく「ナディは友だちだから、いつしよにいたい、力になりたい」という、シンプルなおもいと行動で、ナディさんと歩んでいます。

●毎日の生活、遊びのなかで、それぞれの違いをしなやかに受け入れ、ともに成長していく子どもたち。他者とふれあう機会が激減したこの一年(まだ続いています)で、子どもたちが得ることのできなかつたさまざまな体験の代わりに、本が子どもたちの「友だち」として、どれだけの支えになるのか問われる、「子どもの読書週間」を迎えます。(伸)